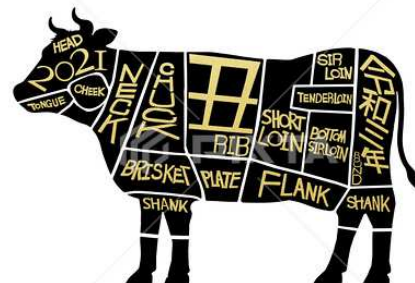


# 日本福祉文化学会 中部東海ブロック通信 第13号

担当理事：〒425-0041 静岡県焼津市石津 751-1 平田 厚 Email: [monogusa-tomy@theia.con.ne.jp](mailto:monogusa-tomy@theia.con.ne.jp)

## 第7期 日本福祉文化学会中部東海ブロック活動を振り返り第8期活動に引き継ぐ 名古屋発「福祉文化元年」を築く～今こそ、人を育てる、アートを創る～を基盤に

第6期学会ブロック活動の状況を把握できないまま、第7期学会ブロック理事として、2018年1月過ぎから、「計画なくして活動は出来ない」「学会ブロック活動が抱えている課題は何か」「中部東海ブロックのエリアは、愛知県・岐阜県・三重県・長野県・静岡県の5県と広範囲の中で何が出来るか」「学会が重視しているブロック活動をどのように活性化できるか」「会員が求めるブロック活動は何か」等、いろいろと悩みながら、2018年度から2020年度までの第7期3年間のブロック活動計画を作成。



pixta.jp - 69163266

### ◇3年間の活動趣旨は、

学会の「ブロック活動の重要性」を再認識し、現在学会員約250名の個人会員（内学生会員7名）、7団体会員構成で、「中部東海ブロック」は、「関東」「関西」に次ぐ3番目に会員数の多いブロック規模(22名)であることが理解できた。

これまでの第6期学会ブロック活動の成果と課題を踏まえて（実際には、引き継ぎ事項・連絡等一切なし）、第7期（2018年度～2020年度・3年間）「中部東海ブロック」（愛知県・三重県・岐阜県・長野県・静岡県の5県）における活動を通して、「ブロック活動」の定着化に努め、会員相互の連携を図る基盤を確立するとともに、ブロックの地域性を尊重しながら「福祉文化実践」の情報交換の機会を持ち、併せて、会員加入の呼び掛けに努めることをあげた。

### ◇具体的着眼項目として

- (1) 学会事務局から、会員名簿の提供を得て、学会ブロック及び各県の会員の状況把握に努める。
- (2) ブロック活動費を申請し、各会員にアンケートを期間中に2回実施する。  
内容は、①会員の確認 ②会員の近況（活動等の紹介） ③ブロック活動への期待 ④ブロック活動の具体的提案 ⑤その他
- (3) アンケートの回収状況を見て「ブロック通信」を発行し、相互理解と連携維持を図る。  
（当面年4回程度発行努力）
- (4) 各県会員の状況把握をもって、各県の世話人を検討し、具体化すれば、持ち回りで意見交換会を検討する。（当面は、学会大会参加の会員相互の情報交換に努める。）
- (5) 年1回程度、ブロック会員情報交換会の開催（当面、学会全国大会開催会場をこれに当てる）
- (4) 各県単位の会員による研修会等を「ブロック研修会又はセミナー、現場セミナー」等の名称として、学会の後援名義申請等をし、広く地域社会に「福祉文化」を根付かせる。  
※その後、「第30回学会大会全国大会東海大会」が具体化し、運営に関わりより具体化した。
- (5) その他、ブロック会員から提案事項の実現につなげる努力をする。

### ◇3年間を振り返ると

- (1) 学会との連絡調整により、ある程度「会員の把握」に努めることができた。
- (2) 3年間の活動計画は、何とか実行努力をした。（理事会における活動報告と課題提起、活動費の申請）
- (3) アンケートは2回実施し、その都度会員に結果を知らせた。（回答率は低い）
- (4) 「ブロック通信」は、3年間で13回発行した。（1年間で4回程度発行）

- (5) 各県会員相互の情報交換は、第29回学会大会大阪大会と東海大会で実現できた。
- (6) 会員加入呼び掛けは、「学会東海大会」開催に向けて、未加入の「長野県」関係者に積極的に働きかけをした。（災害が発生し、学会大会参加も不可能となった）
- (7) 「第30回学会大会全国大会東海大会」開催実現にむけた、愛知県（名古屋市）中心の積極的な取り組みにより、今後のブロック活動への期待が高まった。
- (8) 各県における「実践活動報告」を「通信」を通じて紹介する努力をした。
- (9) 学会ホームページ「ブロック活動」に、「通信」や「関連団体の情報」を定期的にアップした。
- (10) 次期ブロック活動への確実な引き継ぎ。

●名古屋市昭和区八事本町78の八事山興正寺において、2020（令和2）年12月5日（土）、現場セミナー『お寺で楽しむ音楽アクティビティ「和と輪と話」』が定員を上回る（45名定員）参加者により開催されました。

### 第19回 静岡県福祉文化研究セミナー/日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会で ホットする、ご近所のささえあいは誰が創る？ を議論し合う

令和2年10月25日（日）静岡市清水区追分「寄ってっ亭」において、「第19回 静岡県福祉文化研究セミナー（静岡福祉文化を考える会主催）/日本福祉文化学会中部東海ブロック研修会」を開催した。

「静岡福祉文化を考える会」は、令和2年度の活動テーマを「つながるご近所の再構築 決め手は一体何か」をもとに取り組んでいる。「第19回福祉文化研究セミナー」は、静岡県で「第13回学会静岡大会」を開催し、その「福祉文化の火」を消さない様にと、継続した研究協議の場を持ち今日に至っている。

今回のセミナー研修テーマは、「ホットする、ご近所のささえあいは誰が創る？」。

「アイスブレイク」では、「静岡福祉文化を考える会」が、平成25年度から2年間検討協議し、赤い羽根共同募金助成事業により制作した「若者発 ご近所福祉かるた」を活用した自己紹介を展開した。

その後、「円卓トーク ご近所福祉に関わって一言」では、参加者の地域事情や尊い地域実践活動から得た手応えなどを語り合った。ここで参加者の意見をいくつか紹介する。詳細は、学会ホームページにアップ済。

1. 子どもを通じて地域とのつながりが出来るが、高齢者世帯や、単身世帯だと、つながりにくい。
2. 年配者とつながるには、若者・年配者それぞれが歩み寄り、相互理解していくことが求められる。
3. 過去には、どの地域にも、「お節介屋さん」がいた。「お節介屋さん」の復活も、地域で孤立しがちなニーズが生じている今日、その存在も求められるように感じる。
4. 転入転出の多い新旧混住地域（新興住宅/まち部）では、ご近所づきあいの難しさを感じる。  
こうした世帯や人の動きが多い地域では、その都度、「紹介し合う」機会を設ける努力をし、お互いに知り合うことに努める。
5. 「子育てサロン」の取り組みも、それぞれ「地域性」を重視し、真似事であってはならない。
6. いかに地域を「見える化」するか。 広報誌の発行に努めているが、こうした領域に関心がないと誰も出来るものではない。広報誌の発行目的を持ち、地域を知ってもらう努力をする。

